

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

[成果情報名] エンバク中生品種「ニューオールマイティ」の品種特性

[要 約] 「ニューオールマイティ」は、乾物収量に優れている。

[部 署] 山形県農業総合研究センター畜産試験場・草地環境部

[連絡先] TEL 0233-23-8817

[成果区分] 普

[キーワード] 牧草、エンバク、収量性

[背景・ねらい]

エンバクは他のムギ類に比べ越冬性が低いが、環境適応性に優れ、ムギ類の中では耐湿性が高い草種である。また、播種から約2か月で収穫できることから、二毛作の前作物としての利用も期待できる。エンバク中生品種の本県における適応性を調査・検討し有望品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

エンバク中生品種「ニューオールマイティ」の生育特性は次のとおりである。

- 1 乾物収量は、3年間平均で「前進（中生標準品種・県有望品種）」より10%多収である（表1）。
- 2 6月中旬には出穂期となり収穫可能となることから、早晚性を考慮して後作物と組み合わせることにより、二毛作の前作物として利用可能である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 栽培方法は、山形県飼料作物栽培指針に準ずる。
- 2 試験における栽培概要は以下のとおり。

播種日および収穫日

| | 播種日 | 収穫日 |
|-------|-------|-------|
| 平成29年 | 4月28日 | 6月26日 |
| 平成30年 | 4月23日 | 6月19日 |
| 平成31年 | 4月23日 | 6月21日 |

播種量：条播（条間 30 cm）800g/a

施肥量：堆肥 200kg/a、粒状苦土石灰 20 kg/a、基肥として N、P₂O₅、K₂O を各 0.8 kg/a

[具体的なデータ]

表1 収量調査結果(各年および3カ年平均)

| 品種 | | 草 丈 | 生草収量 | | 乾 物 率 | 乾物収量 | |
|------------|-------|---------|----------|-----|-------|----------|-----|
| | | (cm) | (kg/10a) | 標準比 | (%) | (kg/10a) | 標準比 |
| ニューオールマイティ | 29年 | 119.3 | 5,321 | 98 | 13.1 | 698.2 | 114 |
| | 30年 | 92.1 | 3,011 | 95 | 18.6 | 559.0 | 114 |
| | 元年 | 98.0 B | 3,363 | 87 | 17.5 | 588.4 | 102 |
| | 3カ年平均 | 103.1 | 3,898 | 94 | 15.8 | 615.2 | 110 |
| 前進(標準) | 29年 | 126.7 | 5,439 | - | 11.2 | 611.1 | - |
| | 30年 | 95.1 | 3,172 | - | 15.4 | 488.9 | - |
| | 元年 | 109.1 A | 3,845 | - | 15.0 | 574.9 | - |
| | 3カ年平均 | 110.3 | 4,152 | - | 13.4 | 558.3 | - |

※年度ごとに異符号間に有意差あり(p<0.01)

表2 生育調査結果(3カ年平均)

| 調査項目 | 発芽の良否 | 初期生育 | 出穂期 |
|------------|-------|------|-------|
| 評価単位 | 1~9 | 1~9 | |
| ニューオールマイティ | 8.8 | 6.9 | 6月15日 |
| 前進(標準) | 8.9 | 7.6 | 6月23日 |

※ 極不良を1、極良を9とする評点法

※ いずれの年も倒伏の発生は無かった。

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定調査

予算区分：県単

研究期間：令和元年度（平成28年度～令和元年度）

研究担当者：樋田 剛、秋葉 浩一、菅 和寛

発表論文等：なし